



# 広報 つるおかの 医療相談



庄内病院の医師が  
疑問を解決!

この連載では、医療の身近な疑問に、庄内病院の様々な診療科の医師・看護師がお答えします。14回目となる今回は、がん健診と巻き爪を取り上げます。

COVID-19感染者数は減少傾向にありますが、インフルエンザの流行はまだ続きそうです。日頃から手洗い、マスクの着用を心掛けましょう。庄内病院では引き続き院内感染予防のため、来院者にはマスクの着用をお願いしています。ご理解、ご協力をお願いします。

○問合せ 庄内病院総務課 ☎26-5111

## がん健診

### 大腸がん健診で要再検査と言われました

はじめに、がん健診について説明します。

自覚症状が出る前にがん健診を受けることで、がんによる死亡のリスクを減らすことができます。また、治療に伴う費用負担が少なくなるなど、患者さんに大きなメリットがあります。

受診率は毎年少しずつ上昇しているものの、健診異常となっても精密検査を受けない方が増えていることが問題となっています。当院では、胃・大腸・肺・子宮・乳房の5大がん健診を行っていますが、令和6年度の精密検査の受診率は、乳がん健診の97・1%に対し、大腸がん健診は68・3%と低率でした。

次に、大腸がん健診についてです。精密検査は原則、大腸内視鏡検査（CF）をお勧めしていますが、CFに抵抗があっても精密検査をためらっている方もいます。そのような方には、新しい検査法として、負担の軽い「大腸CT検査」をお勧めします。

大腸がん健診を受診し、再検査の必要ありと結果が出ました。精密検査を受けたほうが良いでしょうか。

ただし、この検査で異常が見つかった場合は、必ずCFを行って大腸粘膜の顕微鏡検査で診断を確定します。

検査の選択については医学的判断が必要ですので、必ず担当医にご相談ください。

### 庄内病院のがん健診

当院では、月曜・木曜日の入院ドック（1泊2日）と、火曜・水曜・金曜日の外来ドック（日帰り）で健診を行っています。入院ドックでは、お得な「スベシャルパック」や、女性向けの「レディースデー」なども用意しています。詳しくは同院保健センターまでお問い合わせください。



院長 鈴木 聡

## 形成外科

### 「巻き爪」について教えて

当院では、昨年1月から「巻き爪」に対する治療を開始しました。当院で行っている巻き爪治療は、日常生活への負担をできるだけ抑えながら、症状の改善を目指します。治療開始から1年間の受診者数は延べ40人で、多くの患者様から喜びの声を頂いています。

巻き爪とは、爪の先端が内側に向かって巻き込んだ状態をいいます。足の親指に多く見られます。進行すると、歩行時の痛みや炎症を伴うことがあります。

巻き爪の主な原因は、爪への圧迫です。先の細い靴やサイズの合わない靴を履くことで、足の指に横方向から強い力が加わったり、歩くときに足の指に十分な力がかからなかったりすることが、巻き爪の一因とされています。

さらに、爪の切り方も大きく影響します。痛みがあるからと深爪をしてしまうと、歩くと爪が皮膚に押され、巻き爪が

足の指に痛みがあり、巻き爪と診断されました。どんなことに気を付ければ良いのでしょうか。

進行することがあります。

当院を巻き爪で受診される方の多くは、「もつと早く相談すれば良かった」と話します。足先に痛みや違和感がある場合は、我慢せず、気軽にご相談ください。一人ひとりの生活スタイルに合わせて、予防から治療までをサポートしていきます。

### 庄内病院の巻き爪治療

巻き爪治療は、形成外科下肢創傷外来で行っています。予約制で、診察時間は第2・第4金曜日の午後1時〜3時です。なお保険適用外のため、自費での診察となります。料金の詳細や診察を希望される方は、形成外科外来へお問い合わせください。



皮膚・排泄ケア  
特定認定看護師  
梅本 貴子